

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第6回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部において、
 - ①若手の医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
 - ②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2017年6月29日（木） 第一部：16:50～18:00、第二部：18:00～19:00
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室（第一部）、310会議室（第二部）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）
※ 他機関からの参加可。事前申込不要。先着100名着席可。

5. プログラム：

司会 北中幸子・細谷紀子

【第一部】

16:50 開会挨拶

（宮園浩平 医学系研究科長・医学部長、南学正臣 医学部附属病院 副院長）

16:55 講演

3代目の共働き医師夫婦から見た女性医師のキャリア形成とワークライフバランス
～女性医師のキャリア 医師・妻・母の優先順位～

飯田橋皮膚科スキンクリニック院長 河野 志穂美 先生

～女性医師をより輝かせるために男性医師ができること～

帝京大学医学部整形外科学講座主任教授 河野 博隆 先生

17:35 質疑応答・全体討論

17:55 中締め

【第二部】

18:00～19:00 自由歓談・情報交換会

6. 企画・運営：

東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）

第6回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会

幹事：北中幸子・細谷紀子

委員：飯塚陽子・田村純人・野村幸世・春名めぐみ・本田郁子

M4：秋山果穂・大西泰地 M3：勝又顕正・高橋健祐・米田あゆ

M2：糸数昌史・高橋優輔・中島ひばり M1：岩田千尋・関彩花・田頭祥之助

C2：鴻野芽依・吉富祐太郎

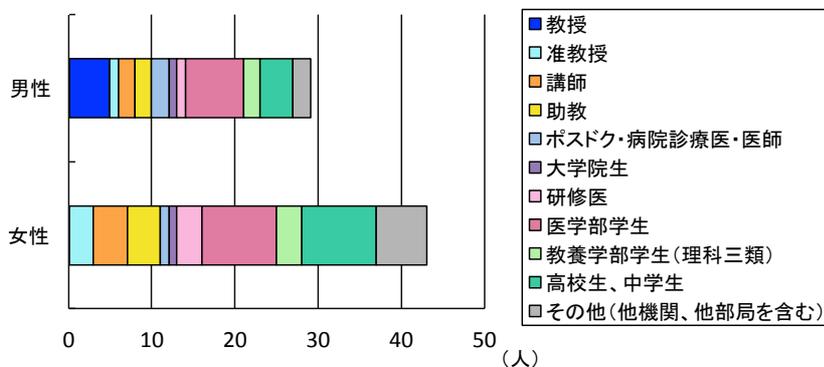
II. 開催報告

1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

参加者内訳

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	5	0
准教授	1	3
講師	2	4
助教	2	4
ポスドク・病院診療医・医師	2	1
大学院生	1	1
研修医	1	3
医学部学生	7	9
教養学部学生(理科三類)	2	3
高校生、中学生	4	9
その他(他機関、他部局を含む)	2	6
計	29	43

(人)



【ご参加いただいた高校生、中学生のご所属（カッコ内は人数）】

都立日比谷高校(3)、白百合学園高校(3)、筑波大附属高校(2)、麻布高校(1)、聖光学院高校(1)、洗足学園高校(1)、所属不明(1)、渋谷幕張中学(1)

2. 当日配布資料

資料1 プログラム

資料2 アンケート用紙

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されている。6回目を迎える今回は、前回に引き続き学外から医師夫婦を講師としてお招きし、これまでの歩みと医師のキャリア形成をめぐる今後の課題について、夫婦それぞれの視点からお話いただくことにより、男女共同参画への理解をより深めることを目指した。

開会にあたり、宮園浩平医学系研究科長・医学部長と南学正臣医学部附属病院副院長よりご挨拶をいただいた。宮園研究科長・学部長は、ご自身の留学先・勤務先であったスウェーデンでのご体験と元スウェーデン大使の森本誠二氏の著書「スウェーデンが見えてくる～ヨーロッパの中の日本～」(新評論社)で述べられているスウェーデン社会の実状を例に挙げながら、労働環境から社会全体まで男女共同参画を理解し受け入れていくことが必要である旨を述べられた。南学副院長は、ご自身が診療科長を務める腎臓内分泌内科において多数の女性教員が活躍している現状と、医学系研究科・医学部が他の理系の研究科・学部と比較して女性比率が高く女性が働きやすい環境にあることを紹介され、今後ますます女性の力が発揮されることを願っている旨を述べられた。

続いて、河野志穂美先生(飯田橋皮膚科スキンクリニック院長)と河野博隆先生(帝京大学医学部整形外科学講座主任教授)より「3代目の共働き医師夫婦から見た女性医師のキャリア形成とワークライフバランス」というテーマでご講演が行われた。

まず、妻の志穂美先生より「女性医師のキャリア 医師・妻・母の優先順位」と題したお話を

いただいた。先生の医学部卒業後の勤務先や勤務形態の変化、そしてクリニック開業へのキャリアの変遷と、結婚、妊娠、出産、育児などのライフイベントを並列にした年表を紹介され、年表を順に追うかたちで、その折々のご経験と心構えを語られた。妊娠・出産においては予期せぬことが起こり得ること、また、家庭と仕事の両立は初めからうまくいくものではなく、その時々で夫婦間でお互いの方向性をよく確認し共有しながら進めていくこと、そして、上司や同僚とも仕事の進め方をよく相談することが大切であることを語られた。医師・妻・母として毎日たくさんのタスクがある中で、「1日24時間で出来ることには限りがある」と時には割り切ることも必要である旨の話もあった。10年前に志穂美先生が医局を辞し、開業に踏み出された際には、家族の生活を守り、自分の体力を維持できる形を目指されたという。現在自らが院長を務めるクリニックの職員の多くは子育て中であり、彼ら、彼女らが無理なく勤務を続けられるような職場環境作りを心がけていることが紹介された。最後に、結語として、医師・妻・母を体験できるのは女性医師の特権であること、キャリアを継続しながらライフイベントのターニングポイントを乗り越えるためには局面ごとに優先順位を柔軟に変えること、家庭と職場の両方における協力と理解が不可欠でありコミュニケーションを常に意識すること、「ありがとう」の声かけが夫婦円満の秘訣であること、そして、女性リーダーが現れることを願っている旨を述べられ、話を締めくくられた。

次に、夫の博隆先生より「女性医師をより輝かせるために男性医師ができること」と題したお話をいただいた。博隆先生は、まず、ご自身が、祖母、母、妻が医師、すなわち「女性医師の夫3代目」であること、また、現在勤めておられる帝京大学医学部では複数の東大医学部卒の女性医師が教授として活躍されており男女共同参画が進んでいる環境であることをご紹介された。このように女性医師かつ母親である女性を長年近くで見続けてきたお立場から、先生ご自身の夫婦観・家庭観・人生観を語られた。現代の医師はいわゆる「いい子」が多く、彼らが育った家庭生活は母親に依存している場合が今もなお非常に多い。そのような現代の女性医師が自分の家庭を持った時、職場では女性も男性も同じパフォーマンスを求められるにも関わらず、母親が家庭のサポートの中心にならないといけないと考えてしまう例が多く見られる。そのことも踏まえ、若手の女性医師・女子学生に向け、人生を送る上で何が「目的」で「手段」なのかをしっかりと考えてほしい旨を訴えられた。お金、ポスト、資格、学位、結婚、家庭、健康は、「目的」か「手段」かを混同しないでほしい、自分の目標は何かを立ち止まって考えてほしい、という博隆先生のメッセージは、聴衆の心に深く刻まれたようである。また、結婚とは、幸せにしてくれる人ではなく幸せにしたい人を選ぶべきであること、相性は重要ではなくどこに向かうかが重要であり、共有体験が重要である、という母や師の教えも紹介された。博隆先生も志穂美先生と同様に、家庭内では対面のコミュニケーションそして感謝の気持ちを表現することの重要性を強調された。職場で男性医師ができることは、まずは意識改革であり、自分の娘の上司であったらどのように行動するかを考えながら女性医師に接し、管理職の立場を活用して新たな職場環境とシステムをつくる努力をする必要があることを説かれた。その例として、家庭か仕事かの二者択一ではなく「スローダウンできるシステム」を作ったり、女性ならではの力が活きるような新たな分野を開拓したりすることを挙げられた。質疑応答では、家庭と仕事のバランス、同業種どうしの結婚、留学中の生活についてなどご夫妻に沢山の質問が寄せられ、会は盛り上がりを見せた。

第一部の締めくくりに、男女共同参画委員会から河野志穂美・河野博隆ご夫妻への謝辞が述べられたあと、第二部として自由歓談の時間が設けられ、ご夫妻を含む参加者の方々が参加し歓談に花が咲いた。今回は医学を志す中高生の参加も多く、現役医師や医学生に生き活きと質問を投げかける姿が見られた。

III. 参加者アンケートの集計結果

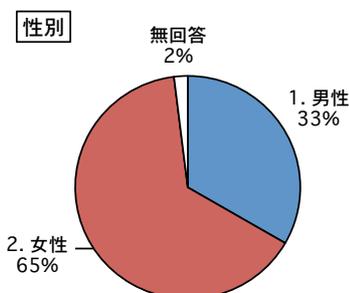
回収数：51件（回収率 70.8%）

回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

< 基本情報 >

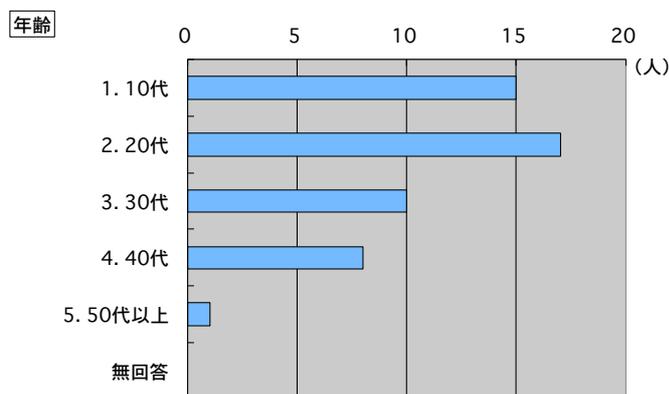
A1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	17	33
2. 女性	33	65
無回答	1	2
計	51	



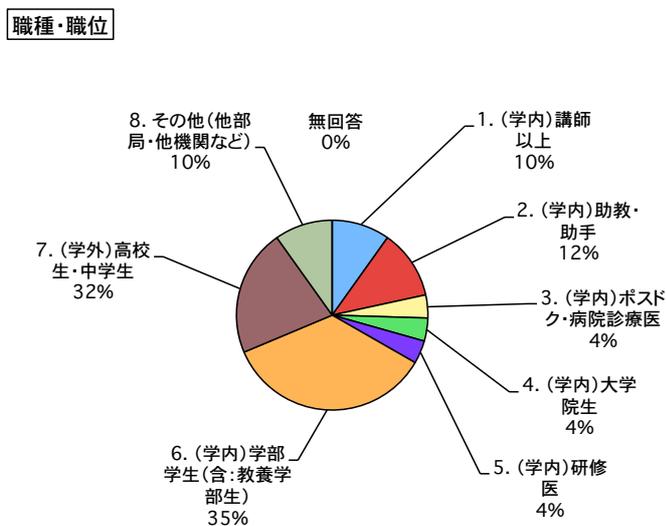
A2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	15	29
2. 20代	17	33
3. 30代	10	20
4. 40代	8	16
5. 50代以上	1	2
無回答	0	0
計	51	



A3) 職種・職位（特任・客員を含む）

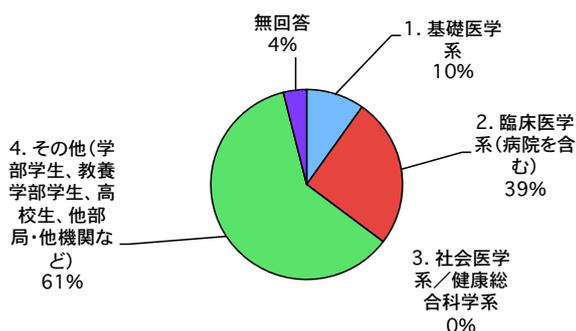
職種・職位	n	(%)
1. (学内)講師以上	5	10
2. (学内)助教・助手	6	12
3. (学内)ポスドク・病院診療医	2	4
4. (学内)大学院生	2	4
5. (学内)研修医	2	4
6. (学内)学部学生(含:教養学部生)	18	35
7. (学外)高校生・中学生	11	22
8. その他(他部局・他機関など)	5	10
無回答	0	0
計	51	



A4) 所属

所属	n	(%)
1. 基礎医学系	5	10
2. 臨床医学系(病院を含む)	13	25
3. 社会医学系/健康総合科学系	0	0
4. その他(学部学生、教養学部学生、高校生、他部局・他機関など)	31	61
無回答	2	4
計	51	

所属

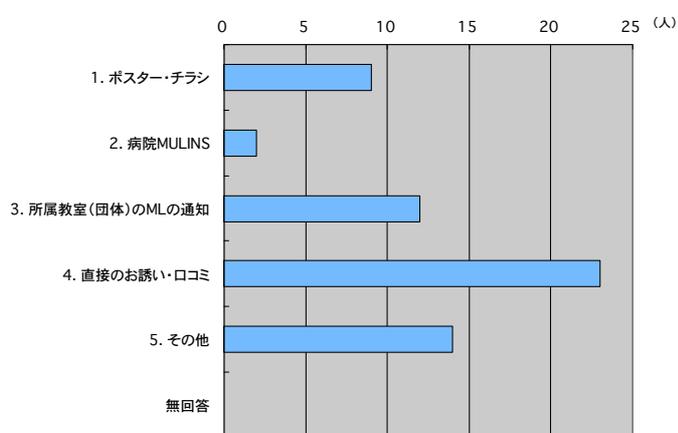


A5) この会を何でお知りになりましたか

(複数回答可)

会を知った媒体(複数回答可)	n	(%)
1. ポスター・チラシ	9	15
2. 病院MULINS	2	3
3. 所属教室(団体)のMLの通知	12	20
4. 直接のお誘い・口コミ	23	38
5. その他	14	23
無回答	0	0
計	60	

会を知った媒体(複数回答可)



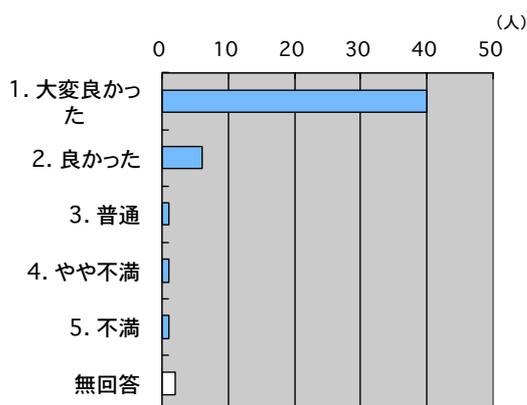
<今回の企画の感想について>

B1) 講演 河野志穂美先生・河野博隆先生

「3代目の共働き医師夫婦から見た女性医師のキャリア形成とワークライフバランス」について

講演(河野志穂美先生・河野博隆先生)	n	(%)
1. 大変良かった	40	78
2. 良かった	6	12
3. 普通	1	2
4. やや不満	1	2
5. 不満	1	2
無回答	2	4
計	51	

講演(河野志穂美先生・河野博隆先生)



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

今回の講演について：

- ・ すごく素晴らしくて、感動しました。
- ・ 貴重なご講演をありがとうございました。今後人生の選択の場面で思い出したいお言葉がたくさんありました。
- ・ 大変貴重なお話を聞かせていただき、今後のことを考える上での参考になりました。
- ・ 将来について考えさせられる内容でした。
- ・ 大変盛況で、先生の情熱に衝撃を受けつつ、多くのことを学ぶことができました。人生における指針をブレずにもつことの大切さを、我が身を振り返りつつ感じておりました。
- ・ 今回は高校生の参加も多く、またお話もとても面白かったです。医師としてどういうキャリアを歩んでいけばいいのか、不安になることも多いですが、河野夫妻のような方が道を示してくださいることであとに続く勇気が湧きます。
- ・ 政府による男女共同参画社会の推進がはかられていますが、依然として、不十分であると思います。河野ご夫妻は、男女共同参画社会の理想的な姿を示されていると思いました。
- ・ 昨年よりも若いご夫婦のお話が聞けてより身近なお話が聞けて面白かったです。年々面白くなっていると感じました。
- ・ 医師の夫婦双方のお話を伺える貴重な機会であり、とても興味深かった。女性医師の夫としての経験からワークライフバランスのあり方について新たな視点からの提言をいただけ、有り難かった。
- ・ 医師としてキャリアを積むとはどのようなことなのか、どのように家庭を作っていくのがよいかについて、1つの例を見ることができ、よかったです。
- ・ 女性医師の講演を聞くことはできても、男女共同参画という1つのテーマについて、男性・女性双方からの意見を聞くことができるのはなかなかないと思うので、大変興味深かったです。
- ・ とても興味深いお話をありがとうございました。なかなかこのような講演をきくことができないので勉強になりました。特にご夫婦そろってのお話だったのでおもしろかったです。
- ・ 具体的な医師夫婦の方のお話を聴けるのは非常に有意義でした。まだ医師になる具体的なビジョンは見えてないですが、これから様々な経験を積んで、考えていきたい。
- ・ 女性と男性それぞれの立場で医師として家庭でうまくやっていくコツが聞けてよかったです。
- ・ 博隆先生の Take Home message も、志穂美先生の年表もどちらもとても参考になりました。
- ・ 夫婦のあり方や考え方が非常に参考になりました。
- ・ とても参考になる話が聞けてよかったです。
- ・ お二人の講演、どちらも聴けて良かったです。ありがとうございました。
- ・ 今後も、女性医師だけでなく、ご夫婦でご講演にいらっしゃるといいなと思いました。
- ・ 具体性があり、また、将来構想の一端も伺え大変参考になりました。
- ・ 実際のモデルにお話を伺うことができたのはよかったです。
- ・ 博隆先生の話が非常に上手かった。ためになりました。
- ・ とても素敵なお夫婦だと思いました。特に博隆先生の言葉が心に沁み入りました。
- ・ 実体験を拝聴できて良かったです。「目的 or 手段？」の印象が大きかったです。
- ・ 目的と手段という話が印象的でした。また、自分にとっての大きな目的を見つけられていないことに気づかされました。

- ・ コミュニケーション(「ありがとう」の言葉、顔をあわせること etc)の大切さを改めて感じました。また、「目的と手段」をごっちゃにすることなく進んでいこうと思いました。
- ・ 元々小さな時から医者になりたいと考えていたが、今日の講演を聞き、より一層医学の道へ行きたいという思いが強くなった。ついつい単純な目的ばかりを追ってしまい、「本当の目的」のことなど考えずに過ごしてしまっているが、これからは「本当の目的」を追い求めて行きたいと思う。
- ・ 今まで、期末を頑張る、〇〇に受かるなど、目先の目標しかなかった。今回のお話で、先の「本当の目的」を考えることが大切だと思った。私は生物について学びたいから、そのためにできることを今のうちから頑張りたい。
- ・ 今はまだ進路を考えている段階で、具体的なことは何も決まっていらないのですが、医学の道に少し興味が湧きました。どんな道に進むにも、自分の力が発揮できるよう、積極的になることが大切だと思いました。
- ・ “結婚”と“出産”という人生における大変大きな機会に目を向けた貴重なお話でした。まだ中学生ということもあり、あまり考えたことはありませんでしたが、医者として働くことを考えた時に大切なことは何だろうと改めて考えました。本日はありがとうございました。
- ・ 娘が将来の希望で医師を目指すことも考え始めました。医師の方の普段の生活のお話をお聞きする機会は初めてでした。大変ためになりました。ありがとうございました。

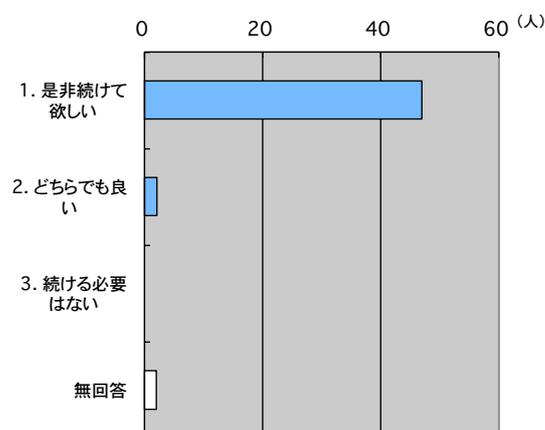
今後の課題について：

- ・ 男女共同参画への思いが聞けてとても良かったです。医学部の教授会全員に聞いてほしい位です。しかし、キャリアアップしている人数が男>女である現況をどうしたら解決できるのか博隆先生には考えてほしいと思います。
- ・ コミュニケーションの大切さを痛感させられました。素晴らしいお話で、もっともっと多くの管理職の先生方にも聞いていただきたい内容でした。
- ・ とてもためになりました。ただスライドの下の方が前の人たちの頭で隠れてしまい、少し見づらかったです。講演はとても楽しく聞かせていただきました。
- ・ どちらかというと社会人向けのようで、高校生にはよくわからなかった。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。

今後もこのような企画を

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	47	92
2. どちらでも良い	2	4
3. 続ける必要はない	0	0
無回答	2	4
計	51	



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会について：

- ・ 毎年ありがとうございます。
- ・ 本日は興味深いお話ありがとうございました。今後もこのような企画を開催していただけると嬉しいです。
- ・ このような機会が増えればうれしく思います。中高生へ向けた交流会なども是非ご検討いただければ幸いです。
- ・ はじめて参加しましたが、今後大学や学会で男女共同参画に携わる可能性があり、会の様式・進行などで参考にさせていただきたいと思います。
- ・ 前回は引き続き、夫婦での医師の過ごし方、男女のキャリアにつき非常に示唆深い講義を頂き、学年を経るごとにその学びのありがたさを知ることができています。今後は、介護や難病を抱える医師の先生方にもお話を伺うことができれば、と熱しております。運営に携わられた先生方、誠にありがとうございました。
- ・ 小児科医になりたいと考えているので、今後小児科医として働いている女性医師の話を知りたい。
- ・ ありがとうございます。
- ・ より社会に開かれた交流に発展してほしい。もっと多くの人が集まってほしい。
- ・ 男性上司の意識改革がもっとすすむといいと思います。教授陣にも出席して頂きたいです。
- ・ 五月祭医学部企画などでチラシを配布できるとより広報・集客につながると思います。
- ・ 本日の講演のスライドをweb等で配布して頂けると大変ありがたく思います。（そのご予定でしたら失礼いたしました）
- ・ 細かいことなのですが、心細く入ってくる人も多いであろう高校生の誘導、話しかけを増やした方が良いでしょう。外部の高校生にとっては、東大内の内輪盛り上がりは少し怖いのもかもしれないと思った。

男女共同参画について：

- ・ 未だに女性は家庭にいてあげるほうが良い、という風潮が強いと思う。例えば、企業なら、育休がどうこう、という問題になっているが、そうではなくて、と思う（まだ分からないが）。
- ・ 職場復帰するときの対応法（体力面や寝不足な状況で医療判断を誤らないための工夫、交渉の方法）→特に同一職場で2回目以降。全学にはメンターシステムがありますが、病院でも科を越えた女性の相談の場があるとよいですね。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思っております。

今後も、当委員会のご活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会